

日本マクドナルド株式会社
代表取締役社長 兼 CEO

トーマス・コウ

香港出身。経営コンサルティング会社でのコンサルタント経験を経て、2010年、香港でマクドナルドでのキャリアをスタート。以後、韓国、日本の戦略・インサイトチーム、イギリス、ポルトガル、シンガポールと6カ国・地域、7つのポジションで働いた後、2024年7月より現職。好きなメニューはダブルチーズバーガー。

お客様に愛される、 最高のチームになろう

強いチームとは何だろう

オープンマインドでフレンドリー。そして、いつもエネルギーに満ちあふれている——。トーマスさんをよく知る方は、皆彼についてそんな人物像を口にする。「誰に対して本本当にフラットなんです」「メールを送ったら、すぐに返事をくれます」「移動中の車内でもできる仕事はどんどん進めている」「メニューを決めるのも食べるのもすごく早い!」……。その口ぶりは、まるで仲のよい同僚を紹介するかのよう。実際、新宿オフィスの40階にある社長室のドアは、本人の意向でいつも開かれています。そんなちよつとしたことから、その人柄が垣間見えてくる。小さな頃から、トーマスさんは「チームワーク」を大切にしてきた。きっかけは小中学生の頃に習っていたサッカー。「特別強いチームでもなかったですし、私も決して才能のある選手ではありませんでした」と本人は笑う。ただ、「勝つ」にはどうすればいいかを真剣に考え、積極的にプレーするチームだったとい

織変革に伴走してきた。マクドナルドビジネスへの理解が深まるにつれ、有効な施策をスピーディーに打ち出せるようになり、各国・地域の熟練のオーナーオペレーターの方々と、深い信頼関係を築けるようになった。それはトーマスさんにとって、「自分も本場のチームの一員になれた」という自信になった。コンサルタント時代に培った決断力や問題解決力、世界のマクドナルドで学んできたハンバーガービジネス

マクドナルドの「本番」は、 いつだって店舗

う。また、チームスポーツに夢中になる過程で、日本のマンガ、とりわけ『キャプテン翼』や『スラムダンク』にどっぷりハマった。それは日本という国を大好きになるきっかけでもあったが、トーマスさんの心をより強く掴んだのは「最も優れた選手がいるチームが、必ずしも最も強いチームではない」ということだった。「そうか。お互いの力を生かし、高め合うチームが真に強いチームなんだ!」。

この学びは、今もトーマスさんの心の深いところに息づいている。自分もまた「チームの一員」。その思いが、ファミリーへの敬意と配慮となって現れている。

チームワークを大切にするトーマスさんゆえ、15年前にマクドナルドの門を叩いた頃は、一つの悩みに直面した。オペレーションの経験がないことだ。トーマスさんにとって、店舗オペレーションを理解すること、そして何より、店舗のマネージャーやワーカーたちが日々何を大切に、何をやりがいに働いているかを理解することは、チームの一員として真つ先にすべきことだった。これまでトーマスさんは6つの国・地域で7つのポジションを経験してきたが、だからこそその地域でも

Go! GEMBAを大切にしてきたという。「店舗が日々直面している課題をちゃんと理解する。また、マネージャーやワーカーの皆さんの仕事ぶりをこの目でしっかり確かめ、感謝の気持ちをお届けする。シンプルですが、この2点をずっと心掛けてきました。なぜならマクドナルドというチームの「本番」はいつでも店舗で行われるからです。店舗を知って初めてこのチームの一員になれると考えてきました」。

一方で、一度問題を把握できれば、そのための施策を考え実行に移すのはトーマスさんの得意領域だ。前職の経営コンサルタント時代には、数多くの企業の経営戦略立案や組



日本でもGo! GEMBAを大切にしている(埼玉大通り店の皆さんと)

スの経験、そして幼少の頃から大切にしてきたチームワーク——これらのピースがすべて、マクドナルドビジネスに求められる力としてびつたりハマる手応えがあった。

あなたと共に、 より良いチームへ

日本のマクドナルドの一員となつてからも、大切にしていることは変わらない。着任前の2024年6月、オフィス・フィールド社員向けの会議の場で、トーマスさんは自己紹介とともにこんな思いを口に出している。「成功したいのであれば、私たちはクロスファンクショナルに働く必要があります。お客様はいつも全体としてのマクドナルドブランドを見ているからです。相互に連携し合うことが、高いパフォーマンスを発揮するチームの必須条件だと考えています」。また、2025年の年始には「共に」という2文字を掲げた。いずれもトーマスさんのチームワークに対する思いと「より良いチームになろう！」

という情熱が詰まっている。

では、日本マクドナルドの“これから”を、トーマスさんはどう描いているのだろう。

「私は日本のマネージャーやクルーの皆さんの“お客様のために”というまっすぐな思いと行動力を、心から尊敬しています。この思いをずっと実践し続けてきたからこそ、日本中のお客様がマクドナルドブランドを愛してくださっているのだと思います。この強みをさらに伸ばすための環境を整えること、わかりやすく言えば、皆さんの最高の応援団長になること——それが私の役割です。デリバリー、モバイルオーダー、ドライブスルー、そして店内でのお食事……。今、お客様と私たちとの接点は実に多様になっており、店舗で求められる対応も複雑になっています。すべてのチャネルで同じ基準の店舗体験をお客様にお届けするには、やはり多様な力をもつ仲間がそれぞれの力を発揮するチームワークが欠かせません。オーナーオペレーターの皆さん、サプライヤーの皆さん、そし

て私たち日本マクドナルド、三本の椅子の全員がより密に連携し、高いパフォーマンスを発揮するチームになること。そうすることで、もっともつとお客様に愛されるマクドナルドになっていきたいのです」。

かつて日本のマンガを観てその主人公に憧れた少年は今、主人公ではなく、チームをまとめる監督だ。ではこのチームの主人公は……？それはきっと、マクドナルドで働く私たち一人ひとりだ。

トーマスさんの“押し”を聞きました！



日本のアニメが大好き！と語るトーマスさんに、特に推しのアニメを聞いてみると、「ふむ、いい質問ですね……」と目を輝かせて教えてくださいましたよ！



『スラムダンク』

年を重ねるに連れ、“押し”度が増したのがこのマンガです。勝利よりも過程の重要性、そしてチームワークの大切さが描かれているんですよ。



『キャプテン翼』

サッカー好きの方ならきっと私と同じ気持ちではないでしょうか。どんな状況でも必ず勝利する翼とそのチームが大好きです。

『機動戦士ガンダム』

小学生の頃、香港でも毎週放送されていて、必ず観ていましたね。横浜の「Gundam Factory Yokohama」にも駆けつけました。

